

ザイナブ 米国出身の元キリスト教徒 (半)

5.0

明:

ザイナブはキリスト教徒たちよりもムスリムたちとより多くの共通性を出し、イスラムについてみ始めることにします。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ザイナブ

日 4 Jul 2014

集日 13 Jul 2014

私はキリスト教徒生徒会にも わっていました。私は共通面が多いことから、非キリスト教徒よりかはキリスト教徒の友 を持つことをいつも 先していました。また、キリスト教徒の女友 が多いながらも、神を意 した生活に する意 の相 (デト、酒、夜び等) から、近性が欠けていることを にしていました。ナイトクラブやバへの いを断る度に、私に何か があるのか かれたり、嘲笑されたりしていました。それはとても つきました。

ある日、私は何人かのムスリム 妹たちと出会い、即座にそれまでに感じたことのなかった 密さを彼女らに感じました。私自身と同、彼女らはデト、口い言、酒を始めとする、数多くの不道 に手を出すことはありませんでした。とても多くの物事に同意することの出来る人々と出会えたことに、素晴らしい 分になりました。私は自分自身のよ様な人物がこの地球上にいたということに きました。それまでその存在には全く 付かなかったのです。

それはムスリムが私の 心を引いた二度目であったことから、私は最低でもイスラムについて べるべきだと 意し、モスクに して 学させてもらうことにしました。そこでクルアンの写本を 呈されたため、私はそれを み始めました。私の焦点は、少しずつキリス

ト教からイスラ ムへと移り わっていきました。まず始めに日曜学校で「救世主としてのキリスト」クラスで教えることを止め、道 クラスに切り替えました。しかし、私がキリスト教徒の模 であることを期待する子供たちとその たちに し、自分が 善者であるかのように感じたため、彼らの目を て教えることが出来なくなってしまいました。

次に、礼 中、私が日曜学校を教えることを止め、日曜日には の教会へ行って教会形成について学ぶよう神が私を いてくれていることを感じ取りました。教会形成 とは、たとえば2つの教会が同じ通りにあった 合、なぜ一方には50人のメンバ がいて、もう一方には5,000人いるのか、といったようなことを学ぶものです。当 の私はそれについて学ぶことが全く意味あるものとは思えませんでした。神がそれを く めているような がしました。私はそれまでに、もしも神がある方向に人を いていて、それが自分の本能や欲望によるものでないことが かなら、最善の人生のためにはそれに うべきだということを読んでいました。私は 去に神の きを したことから、非常に多くの失 を していました。

私は自分のキリスト教徒の家族と友人を 切っていると感じていたため、ムスリムの女友 も含め、 とムスリムについて し合いませんでした。私自身の 断には、いかなる外部の重 も加えられたくはなかったからです。徐々に、自分自身でも 付かない内に、私の信仰はキリスト教からイスラ ムへと わりつつありました。キリスト教は私の人生の基 そのものであったため、その は早いものでも なものでもありませんでしたが、 革は起きたのです。

ある日学校で、「放 はどんなことを しんでいるの」とムスリムの友人が ねてきました。彼女に、私の好きな活 は日曜学校で教えることだと言いました。彼女は私がどこで教えているのか いてきたので、私はどこでも教えていないと答えました。もしそれが好きな活 なら、どうしてそれをしていないのかと彼女は言いました。そのとき、私は自分で が付かない内に 革が起きていることを しました。私は日曜学校ではもう して教えたりはしないことを 信じていました。なぜなら、私はもうキリスト教徒ではない代わりに、多分、恐らく、ムスリムだったからです。私の信仰は かにイスラ ムだったのです。そのことを めることは最も しいことの一つでした。私は恐らく、内心ではやが

てキリスト教に り、より な人生を むことを求めていたのかもしれませんが。でもそうは
ならなかったのです。それゆえ、私はゆっくりと、私がキリスト教をもう信じていな
いことを、自分でも きながら、かつ悲しさとともに彼女に言いました。それらの言 を
するのはとても しいことでした。彼女はその理由を いたため、私は ではなくクルア ン
を んでいること、そしてその内容を信じていることを しました。「じゃあ、あなたは
ムスリムなの？」と彼女は いました。「人がムスリムとして定 される基 が私には分か
らないわ。」と私は言いました。彼女は私の信仰について色々な をし、私はムスリム
であると言い、 はただ正式に改宗をするだけだと言いました。改宗するにはどうすれ
ばいいのかと いた私に、彼女は「私の言うことを 唱するだけでいいのよ」と言い、私
はそうしました。こうして、私はわずか数分の内に、自分の中におけるキリスト教の
死と、イスラ ムの 生を しました。

言うまでもなく、その瞬 は私の 内に永久に刻み まれています。インシャ アッラ （神が
そうお望みであれば）。

私はとても していましたし、自分の考えていたことが に起きたということを肌で 感じ
なければなりませんでした。私はそれが（ムスリムとキリスト教徒の を行ったり来た
りするような）煮え切らない 断になってしまうようなことを望まなかったため、ムス
リムであることはどういうことなのかを正 に知り、自分がムスリムであるというこ
を 感するため、4人のイマ ムと予定を入れました。

その 、私は自分が正しかったのだということを 信しました。私は人生の中で探し求め
ていたものをつけ、正しい 所にたどり着いたのだという安心感を得ました。私はた
びたび、自分が元々ムスリムだったのではないかと思う程ですが、神は私がキリスト
教徒の 境に生まれ育ち、ムスリムとして生まれ育った人々とは可也 った角度で神に奉
仕することをお望みになったのではないかと思います。私にはムスリムの兄弟 妹から
学ぶべきことが多いですが、ムスリムもキリスト教徒として育った人々から学ぶこと
の出来る分野は 山あると感じます。インシャ アッラ 、私は自分があの改宗の日を して
忘れないことを います。というのも、世界が突然 色から色彩 かなものに 化したよう
な がしたからです。それが可笑しな主 だというのは分かっていますが、私が した 化を 明
するにはこれ以外の表 は思い浮かばないのです。物事は なる 相を せ、 いは わり、音も

って こえました。本当に、それを文章にすることはとても困 なのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/127>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。